職場からのレポート

温故知新を出し合って 明るい職場造りを

三川指導部　前川哲也

温故知新という言葉があるが、新年を迎えて一九七七年一年間をふりかえることも心身の糧となろうし、職場活動の前進への継続ともなろう。

労働条件、労働協約、福利厚生の改定要求は新年早々の年中行事となり、春闘の前段闘争となって定着してきたが、少数組合の悲哀で満足すべきものとなっていない。坑外労働者の労働条件向上にまでは、まだまだである。

出勤奨励金・精勤賞与にしても出勤方数を多くされたうえに、金額でまた押さえられている。現に正月休み前後に出勤しても、会社は坑内外に差をつけている。

加わる重労働

円高不況により、輸入炭が国内炭より価格が六千円も安いし、全国の貯炭は百万トンをこえようとしている。エネルギー危機で見直されつつあった石炭が、不況による需要の減少、円高による国内炭価の騰貴で再び石炭産業の危機につながるのではないか。

会社はいう、「有明鉱の分を三池炭鉱の体制で肩がわりしながら、払管理の徹底により年間五百二十万トンを出炭し、最高出炭で、坑内保安の実態、その体制ともにまだまだ多くの問題点が除かれていないことが明らかとなり、とりあえず四山・三川両指導部は会社に対しそれぞれ、それらをすみやかに改善するよう要求した。

×

坑内保安点検はまず、執行部と保安担当者により、有明・四山両鉱が昨年十二月二十六日、三川鉱が同年同月二十八日に行なわれた。

組合はさきに四山・三川・有明三鉱の全坑底にわたって保安体制の強化をめざし保安点検を行なった。これは炭労が年末・年始を期に毎年続けてきている保安点検月間運動の一つとして行なったものである。

保安状態を改善せよ

組合、坑内点検し要求

その結果については、まず、すでに四山と三川両指導部がそれぞれ要望事項を集約、会社に「一日も早く改善するよう」に申し入れたが、本部として特に目についた改善点としては、①高温箇所がなお局部的に残っている。②運搬関係の管理の不十分。③火薬管理上に見られるズサンさ――など。やはりあるがよくなってきた。グライダーの粉じん防止と防じんマスクの全員支給。クレーンの負荷制限。吊りワイヤーや工具に関すること等、これでいいとまではいかないが、よくなってきた。

職場内の合建（差別支配上の一手段）は、長いことかかってなくすことができた。

それでも会社の合理化は進む、「少い人員で多くの仕事をせよ」と。

有明鉱の合併によって、有明鉱の機械修理が三川鉱坑外職場の私たちに押しつけられてくる。有明鉱には、坑外施設がない。

三川鉱坑外職場の私たちは、三川鉱への宮浦鉱の統合により、もと宮浦鉱の機械の修理もさせられているのに。昨年の十一月には、カッターの修理が持ち込まれてきた。ローダーやパンツアーコンベアの修理等も持ち込まれてくることが予見される。

みんな仲間だ

作業員の管理が強化されていく。職場内外の整理整とんという美名のもとに、休憩所の統合問題がでてきた。各作業所にある休憩所を一カ所に集める、という話である。一カ所に集めることによって、人の管理を強めようということではないか。

始業・終業時間の締めつけ。各所で行なわれている繰り込みの一本化。さらに進んで、仕事量に応じて繰り込み配役を実現するたくらみと思う。繰り込み一本化は、作業所と作業の特殊性をなくすものだ。今日の自分は、どこで何をやるのか、まったくわからなくなってしまう。

そこで労働者を競争させ、お互いに反目させる。

「みんな仲間だ炭掘る仲間……つらいときには手を取り合おう」と私たちは、昨年の定期総会を前に①仲間とは、助け合いとは、どんな姿をいうのか。②安全で快適に仕事ができる職場をどうしてつくるか。③職場新聞〝はぐるま〟と私たちとの関係はどうあるべきか――の三点を話し合い、一人ひとりが労働者としてのこれまでの意識や言動を反省し、前進のために努力していくことを全員で確認もしてきた。これからの一年も常に話し合いながら、いっそう明るく、働きやすい職場をつくる努力をみんなで積みあげていこう。

右とともに、さらにその時期を前後しながら全職場分会でも同じ保安点検を行なった。

その結果については、まず、すでに四山と三川両指導部がそれぞれ要望事項を集約、会社に「一日も早く改善するよう」に申し入れたが、本部として特に目についた改善点としては、①高温箇所がなお局部的に残っている。②運搬関係の管理の不十分。③火薬管理上に見られるズサンさ――など。やはりあるがよくなってきた。グライダーの粉じん防止と防じんマスクの全員支給。クレーンの負荷制限。吊りワイヤーや工具に関すること等、これでいいとまではいかないが、よくなってきた。

職場内の合建（差別支配上の一手段）は、長いことかかってなくすことができた。

それでも会社の合理化は進む、「少い人員で多くの仕事をせよ」と。

有明鉱の合併によって、有明鉱の機械修理が三川鉱坑外職場の私たちに押しつけられてくる。有明鉱には、坑外施設がない。

三川鉱坑外職場の私たちは、三川鉱への宮浦鉱の統合により、もと宮浦鉱の機械の修理もさせられているのに。昨年の十一月には、カッターの修理が持ち込まれてきた。ローダーやパンツアーコンベアの修理等も持ち込まれてくることが予見される。

みんな仲間だ

作業員の管理が強化されていく。職場内外の整理整とんという美名のもとに、休憩所の統合問題がでてきた。各作業所にある休憩所を一カ所に集める、という話である。一カ所に集めることによって、人の管理を強めようということではないか。

始業・終業時間の締めつけ。各所で行なわれている繰り込みの一本化。さらに進んで、仕事量に応じて繰り込み配役を実現するたくらみと思う。繰り込み一本化は、作業所と作業の特殊性をなくすものだ。今日の自分は、どこで何をやるのか、まったくわからなくなってしまう。

そこで労働者を競争させ、お互いに反目させる。

「みんな仲間だ炭掘る仲間……つらいときには手を取り合おう」と私たちは、昨年の定期総会を前に①仲間とは、助け合いとは、どんな姿をいうのか。②安全で快適に仕事ができる職場をどうしてつくるか。③職場新聞〝はぐるま〟と私たちとの関係はどうあるべきか――の三点を話し合い、一人ひとりが労働者としてのこれまでの意識や言動を反省し、前進のために努力していくことを全員で確認もしてきた。これからの一年も常に話し合いながら、いっそう明るく、働きやすい職場をつくる努力をみんなで積みあげていこう。

成果もある

職場環境改善は、係長との数回にわたる話合いにより、徐々にではあるが改善されてきている。

「ある新労組員の手記」を読み終えたので感想を聞いてみたところ、「なるほどなあ、これが本当の姿ですね。入社の第一歩から、会社のいいなりの教育と説明を受けてきましたが、労働者は一本（統一）になって行くべきではないでしょうか」、といいながら「あなたが書いたのでは」と尋ねられ、あわてる一幕もありました。

×

しかし、この環境で「印」まで押したうえ「活動する」ということは大変な勇気がいるし、そこには人間としての苦しみの歴史を積み重ねてゆかねばならないでしょう。

私のように、売店にも守衛がいた時代を経験し、「三池争議」の裏表を知り、金銭的にいろいろ悩まされて……という事実だけは、しっかり三池労組員の方々にも理解してほしいと思います。

いまから、これら若者たちにしっかり話しかけ、知らせてほしいと思います。私もことあるごとに「私が停年になったあとはお前たちが中堅だ、しっかり勉強して後継になれ」、とはげましています。

――K記

なお炭労の保安点検月間は去年の十二月十九日から、この十四日まで行なわれたが、今月末から来月初めにかけて支部ごとの相互点検交流（九州では三池―高島間の交流）が計画されている。もちろん右の月間運動の目的は、「事故や災害を未前に防ぐための改善の実現」、にあることは述べるまでもなかろう。

三川指導部転場十五分会の新聞〝はぐるま〟。坑外転場ながら、命を守る闘いの先頭に立っている。前川さんはこの分会の分会長さんである。

いっぺんに吹き飛んだ 宝くじに託した夢

石河鉄矢

右とともに、さらにその時期を前後しながら全職場分会でも同じ保安点検を行なった。

その結果については、まず、すでに四山と三川両指導部がそれぞれ要望事項を集約、会社に「一日も早く改善するよう」に申し入れたが、本部として特に目についた改善点としては、①高温箇所がなお局部的に残っている。②運搬関係の管理の不十分。③火薬管理上に見られるズサンさ――など。やはりあるがよくなってきた。グライダーの粉じん防止と防じんマスクの全員支給。クレーンの負荷制限。吊りワイヤーや工具に関すること等、これでいいとまではいかないが、よくなってきた。

職場内の合建（差別支配上の一手段）は、長いことかかってなくすことができた。

それでも会社の合理化は進む、「少い人員で多くの仕事をせよ」と。

有明鉱の合併によって、有明鉱の機械修理が三川鉱坑外職場の私たちに押しつけられてくる。有明鉱には、坑外施設がない。

三川鉱坑外職場の私たちは、三川鉱への宮浦鉱の統合により、もと宮浦鉱の機械の修理もさせられているのに。昨年の十一月には、カッターの修理が持ち込まれてきた。ローダーやパンツアーコンベアの修理等も持ち込まれてくることが予見される。

みんな仲間だ

作業員の管理が強化されていく。職場内外の整理整とんという美名のもとに、休憩所の統合問題がでてきた。各作業所にある休憩所を一カ所に集める、という話である。一カ所に集めることによって、人の管理を強めようということではないか。

始業・終業時間の締めつけ。各所で行なわれている繰り込みの一本化。さらに進んで、仕事量に応じて繰り込み配役を実現するたくらみと思う。繰り込み一本化は、作業所と作業の特殊性をなくすものだ。今日の自分は、どこで何をやるのか、まったくわからなくなってしまう。

そこで労働者を競争させ、お互いに反目させる。

「みんな仲間だ炭掘る仲間……つらいときには手を取り合おう」と私たちは、昨年の定期総会を前に①仲間とは、助け合いとは、どんな姿をいうのか。②安全で快適に仕事ができる職場をどうしてつくるか。③職場新聞〝はぐるま〟と私たちとの関係はどうあるべきか――の三点を話し合い、一人ひとりが労働者としてのこれまでの意識や言動を反省し、前進のために努力していくことを全員で確認もしてきた。これからの一年も常に話し合いながら、いっそう明るく、働きやすい職場をつくる努力をみんなで積みあげていこう。

成果もある

職場環境改善は、係長との数回にわたる話合いにより、徐々にではあるが改善されてきている。

「ある新労組員の手記」を読み終えたので感想を聞いてみたところ、「なるほどなあ、これが本当の姿ですね。入社の第一歩から、会社のいいなりの教育と説明を受けてきましたが、労働者は一本（統一）になって行くべきではないでしょうか」、といいながら「あなたが書いたのでは」と尋ねられ、あわてる一幕もありました。

×

しかし、この環境で「印」まで押したうえ「活動する」ということは大変な勇気がいるし、そこには人間としての苦しみの歴史を積み重ねてゆかねばならないでしょう。

私のように、売店にも守衛がいた時代を経験し、「三池争議」の裏表を知り、金銭的にいろいろ悩まされて……という事実だけは、しっかり三池労組員の方々にも理解してほしいと思います。

いまから、これら若者たちにしっかり話しかけ、知らせてほしいと思います。私もことあるごとに「私が停年になったあとはお前たちが中堅だ、しっかり勉強して後継になれ」、とはげましています。

――K記

なお炭労の保安点検月間は去年の十二月十九日から、この十四日まで行なわれたが、今月末から来月初めにかけて支部ごとの相互点検交流（九州では三池―高島間の交流）が計画されている。もちろん右の月間運動の目的は、「事故や災害を未前に防ぐための改善の実現」、にあることは述べるまでもなかろう。

この若者たちにはげましを

試用員あがりの若者が、はじめて三池労組機関紙「みいけ」を手にしたといいながら、真剣に読んでいました。

「あーあ。やっぱり今年も一年に一回にまみれて仕事をせんなんとっぱり生産第一主義が根強く横たわっていた。

しかし、この環境で「印」まで押したうえ「活動する」ということは大変な勇気がいるし、そこには人間としての苦しみの歴史を積み重ねてゆかねばならないでしょう。

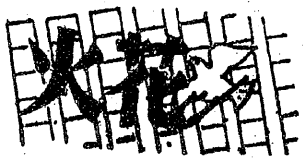
私のように、売店にも守衛がいた時代を経験し、「三池争議」の裏表を知り、金銭的にいろいろ悩まされて……という事実だけは、しっかり三池労組員の方々にも理解してほしいと思います。

いまから、これら若者たちにしっかり話しかけ、知らせてほしいと思います。私もことあるごとに「私が停年になったあとはお前たちが中堅だ、しっかり勉強して後継になれ」、とはげましています。

――K記

焼酒の飲み方も学びました

兵庫　池田一人



寒くなって参りました。皆様お変りありませんか。私も元気で働いております。

過日、COを守る会からのお便りを頂きました。お世話になっていながらお返事すらできなく、申し訳なく思っています。微力ながらも、機関紙〝みいけ〟の購読だけは今後も続けていきたい、と思いますのでよろしく。

十二月三～四日兵庫県まなぶ協議会の総会があり、その中で来期の会長に選出されました。友の会運動を追求する中、三池の五人組活動を手本に今年一年頑張っていきたい、と思います。

機関紙〝みいけ〟を読み、退職される人の顔写真の中に、記憶のある人を見ると特に懐かしく思います。

月見ケ丘地域分会の人たち、また今年あたり寄せて戴くかもしれません。第八回・九回の三池にまなぶに参加してから長らく途切れましたが、活動の方も〝まなぶ〟を中心に進めると、三池に学んだ団結、抵抗、統一がよりはっきりしてきます。実践の中に埋没するのでなく、もう一度学校で学び、実践に返っていけるように学習を大切にする決意です。

三池は、私たちの学校だと思っています。焼酒の飲み方も学びましたが、この次にお会いするときには一人でも多くの職場の仲間を誘ってくるようにします。

寒くなる折り、皆様方健康に十分ご注意されることを祈っています。

×

池田さんのお住まいは「兵庫県明石市貴崎三丁目十六―十五」です。どうか、お元気で活動なさることを心から期待いたします。